

特別企画



開催報告：第4回 JEMEA 若手サマースクール

The 4th JEMEA Young Summer School Report

兵庫県立大学大学院工学研究科 朝熊 裕介

〒671-2280, 兵庫県姫路市書写 2167

e-mail: asakuma@eng.u-hyogo.ac.jp

2016年より始まった若手サマースクールを、2019年度は、9月17日、18日の2日間に岡山県で開催された。過去の開催例（2016年、岐阜県奥飛騨、2017年長野県軽井沢、2018年宮城県松島）にならい温泉地（岡山県湯郷温泉）での開催を行った。開催に当たり、講師を快く引き受けていただきました広島大学 深澤智典先生、岡山大学 仁科勇太先生、(株)豊田中央研究所 福島英沖先生に感謝いたします。参加者は、19名と例年とほぼ同じ程度の人数が集まりました。他の関連学会と重なり、日程調整が大変になるなど多忙の中、参加者19名（うち学生4名）になり、ほとんどが遠方よりの移動にもかかわらず、参加者のみなさまには御礼申し上げます。

今回は、岡山大学の研究室見学を行い、講演・見学終了後、移動する日程となった。

当日は、下記のように、進行した。

【9月18日(水)】

場所： 岡山大学 津島キャンパス 新技術研究センター303室

講演会1 広島大学 深澤 智典先生

「マイクロ波加熱水熱処理による粉体状廃棄物のゼオライトへの再資源化」

講演会2 岡山大学 仁科 勇太先生

「グラフェン類の効率的合成：マイクロ波への期待」

仁科研究室見学

16:30 移動（送迎バス）→湯郷グランドホテル

【9月19日(木)】

場所： 湯郷グランドホテル

講演会3 (株)豊田中央研究所 福島 英沖先生

「マイクロ波の加熱効率と熱損失および高温加熱の課題」

総合討論

移動（送迎バス）→岡山駅 解散

はじめに、広島大学の深澤先生からの講演では、ゼオライト粒子の作成プロセスに関して技術提供を頂いた。JEMEA 関連の学会では珍しい化学工学の分野の専門性から、マイクロ波の照射方法が粒子作成後の効率へどのような影響を及ぼすかについての考察は、大変参考になった。マイクロ波をプロセス工学に関する操作論から議論することは大変有意義であることを理解することができた。次に、岡山大学の仁科先生からの講演では、高付加価値のグラフェン作成において、マイクロ波の利用可能性について、現状の問題点や夢を語っていただいた。マイクロ波による高エネルギーの付与か、新規材料の作成やその高機能化に有望であることが再認識された。その後の、仁科研究室の見学会では、最先端の装置を見学することができた。マイクロ波関連装置以外に、数多くの合成装置や分析装置が充実しており、スタッフのモチベーションなどを含め、参加した若い研究者にとって大変刺激的なものであった。見学会後は、場所を湯郷グランドホテルに移動し、夕食および夕食後のディスカッションでは、例年通り、夜遅くまで若手、中堅問わず活発な議論が行われた。二日目は、豊田中央研究所の福島先生よりマイクロ波の高温加熱における課題を講演頂き、若手研究者に向けて、叱咤激励を頂いた。その後、総合討論では、中部大学と東北大学の各グループから最近のトピックに関して、話題提供をしていただいた。学生の発表の機会として、貴重な経験になったものと確信している。帰りの岡山駅までのバス内でも議論が続き、とても有意義な会になった。全体的には、普段の学会や講演会では得ることができない知識や意見交換を行い、問題点を共有できた。例年にはなかった研究室見学を行い、装置の前でのディスカッションは、今後の具体的な研究のアイデアの創出に役立てたものと確信している。このように、二日間にわたって中堅および若手の世代を超えて懇親を深めることができ、本来の若手WGの目的を十分に達成できた。最後に、本セミナーでの経験が、異分野間での学术交流や共同研究につながっていくことを祈念しております。

岡山大学新技術研究センターにて



湯郷グランドホテルにて

